

●●●平成29年7月～9月期 栃木県中小企業景況調査(153回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】

今期(県内全体)の業況
































D I 値
-18.4
※全国 -14.8

point!

県内全体の業況(DI値)は、前期比-2.1ポイントの-18.4ポイントと悪い状態が続いており、全国との差も-3.6ポイント開いた。主要4業種では小売業が特に悪い状況となった。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	D I 値	-5.8	-23.3	53.6	-10.0	-6.7	2.9
業況：今期は悪化となるも、来期は改善が見込まれる (D I 値 前期比-1.7ポイント)							
建設業							
	D I 値	-18.3	-5.2	15.8	-26.3	-5.3	-21.3
業況：今期は小幅な悪化、来期も引き続き悪化の見通し (D I 値 前期比-2.7ポイント)							
小売業							
	D I 値	-34.7	-40.0	37.5	-35.0	-32.5	-30.3
業況：今期は悪化、来期は小幅な改善を予想 (D I 値 前期比-9.0ポイント)							
サービス業							
	D I 値	-17.2	-20.0	46.6	-30.5	-11.8	-20.8
業況：今期は小幅な改善をするも、来期で悪化の見込み (D I 値 前期比+3.2ポイント)							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (23.7%)
- 第2位： 製品(加工)単価の低下・上昇難 (17.1%)
- 第3位： 製品ニーズの変化への対応 (13.2%)

小売業

- 第1位： 大・中型店の進出による競争の激化 (20.0%)
- 需要の停滞 (20.0%)
- 第3位： 購買力の他地域への流出 (14.5%)

建設業

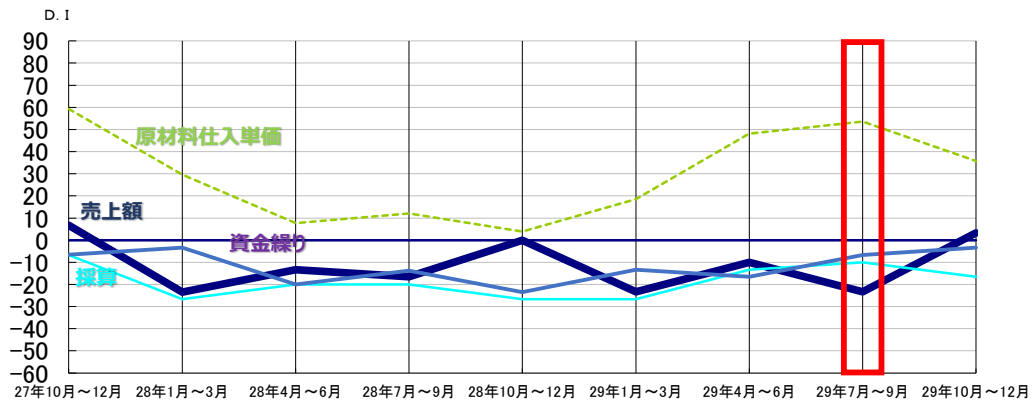
- 第1位： 民間需要の停滞 (21.2%)
- 第2位： 官公需要の停滞 (18.2%)
- 第3位： 請負単価の低下・上昇難 (15.2%)

サービス業

- 第1位： 利用者ニーズの変化への対応 (20.2%)
- 第2位： 新規参入業者の増加 (15.5%)
- 需要の停滞 (15.5%)

製造業

「売上額が減少、来期は大幅な改善を見込む」

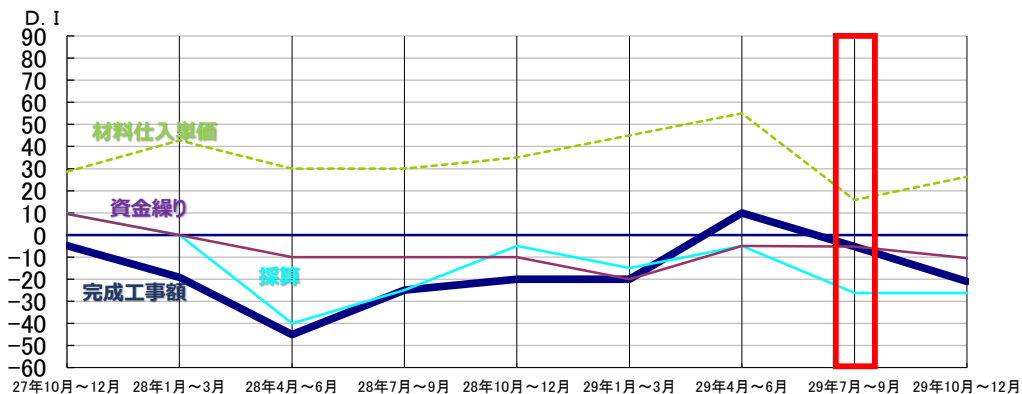


今期は、前期に比べて「売上額」が13.3ポイント(-10.0→-23.3)減少。来期においては26.6ポイント(-23.3→3.3)の大幅な改善を予想している。「採算」は3.3ポイント(-13.3→-10.0)、資金繰りは9.9ポイント(-16.6→-6.7)の上昇となった。

「原材料仕入単価」は5.5ポイント(48.1→53.6)増加したが、来期は17.9ポイント(53.6→35.7)の減少が見込まれる。

建設業

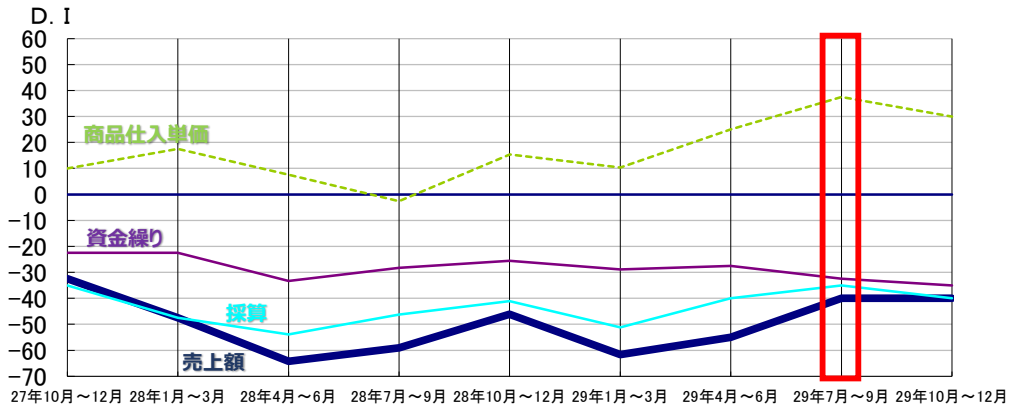
「売上額(完成工事額)が減少、来期まで続く見通し」



「売上額(完成工事額)」は前期比-15.2ポイント(10.0→-5.2)となり、来期も15.8ポイントの減少が見込まれる。「採算」も-21.3ポイント、「資金繰り」は-0.3ポイントで、引き続き横這いから減少が予想される。「材料仕入単価」については、前期比-39.2ポイント(55.0→15.8)となったが、来期では10.5ポイント(15.8→26.3)の上昇を見込んでいる。

小売業

「資金繰りが悪化。来期の売上げは横這いを見込む」



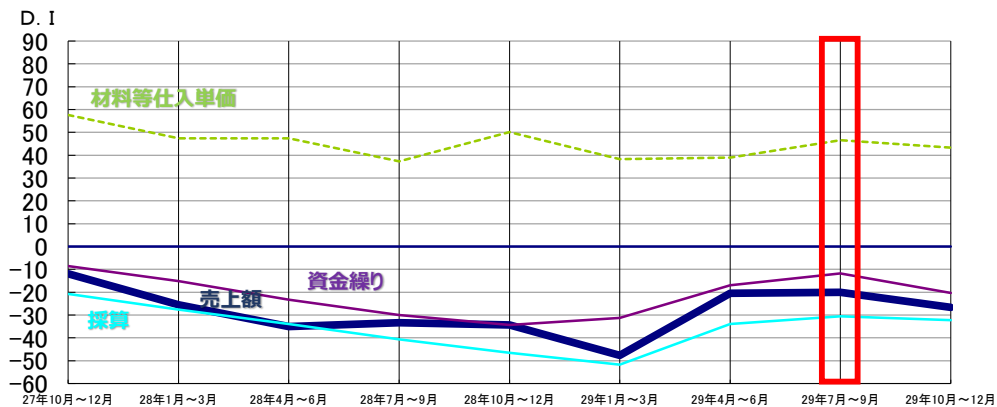
「売上額」が前期比15.0ポイント(-55.0→-40.0)、「採算」が5.0ポイント(-40.0→-35.0)の改善。「資金繰り」は5.0ポイント(-27.5→-32.5)の悪化となった。

来期は「売上額」が横這い、「採算」は5.0ポイント(-35.0→-40.0)、「資金繰り」は2.5ポイント(-32.5→-35.0)の悪化が見込まれる。

「商品仕入単価」は今期12.5ポイント(25.0→37.5)増加し、来期は7.5ポイントの減少を予想している。

サービス業

「各項目で改善傾向、材料等仕入単価は高く推移」



今期は「売上額」が前期比0.4ポイント(-20.4→-20.0)、「採算」が3.4ポイント(-33.9→-30.5)、「資金繰り」が5.1ポイント(-16.9→-11.8)の改善となった。「材料等仕入単価」は前期比7.6ポイント(39.0→46.6)上昇した。

来期は各項目とも下降の傾向にあるが、「材料等仕入単価」では小幅な改善が見込まれる。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

うつのみや市・小山市美田・那須町・上三川町・都賀町

佐野市あそ・間々田・湯津上・黒羽・那珂川町

○調査時点

平成29年9月1日

○調査対象期間

平成29年7月～9月期の実績及び、平成29年10月～12月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.1%
建設業	19	12.8%
小売業	40	26.8%
サービス業	60	40.3%
合計	149	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。